

■第29回 み言葉の分かち合い

●第1朗読 使徒言行録3・13～15、17～19

ペトロはイスラエルの民衆に向かって、アブラハム、イサク、ヤコブの神の僕<sup>しもべ</sup>であるイエスは、人々の罪を償い、永遠の命へと導くことができる方なのに、あなた方は死へと追いやった。このような結果を招いたのは、あなた方が無知「彼らは自分が何をしているのか分からないのです。」(ルカ23・34)からおきた。また、イエスについて、「モーセの律法と預言者、そして詩編に書き記されたことは、すべて成就されねばならない」(ルカ24・44)と語る。

イエスから息を吹きかけられ聖霊を受けたペトロは、足の不自由な方を見て、「あなた方一同の前で、この人を完全に癒やしたのです。」(使徒言行録3・16) これを見たイスラエルの民衆は驚く。

●第2朗読 1ヨハネの手紙2・1～5

イエスは、私たちの罪と全世界での罪とを償えることができる唯一の方です。

信仰者は、愛の掟と戒めを守ることで、神からの愛が実現します。掟や戒めは難しいものではなく、愛の掟とは「神を愛し、自分を愛するように隣人を愛しなさい」(マタイ22・36～40) 戒めとは、「十戒」(①わたしが唯一の神②偶像を造らない③神の名をみだりに唱えない④安息日を守る⑤父母を敬う⑥殺すな⑦姦淫するな⑧盗むな⑨偽証をするな⑩隣人の家を欲しがらな) (出エジプト記20・3～17) のことです。

罪とは、①「法に背くこと。」(1ヨハネの手紙3・4)「不正はすべて罪です。」(1ヨハネの手紙5・17) ②神のみ心から遠ざかること。神は愛とあるので、愛の掟と十戒(前半は神への愛、後半は人への愛)から離れること。③「良心を傷つけること。」(1コリント8・12)

「罪を犯す者のみが死ぬのであり、息子は父の罪を負わず、父も息子の罪を負わない。」(エゼキエル書18・20) 従って、先祖や親の罪が子に現れることなど決してない。

●福音書朗読 ルカ24・35～48

イエスは弟子たちの真ん中に立たれ、「平和があるように」と語ると、復活後のイエスの姿について、弟子たちはまだ理解していなかったもので、イエスの亡霊だと疑った。そこでイエスは、わたしには肉体も骨もあると言って、焼いた魚を一切れ食べた。そして、聖書を悟らせるために、「メシアは死んで三日目に復活する。また、悔い改めて、受洗することで、罪は赦される。このことを全世界に出て行き宣べ伝えよ」と語る。